

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

製品名: コスミックプライマーOR 主剤
製品種類: 塗料
使用上の制限: 業務用
会社名: シーカ・ジャパン株式会社
住所: 東京都港区元赤坂 1 丁目 2 番 7 号 赤坂 K タワー 7F
電話: 03-6434-7291
緊急連絡先電話: Sikaテクニカルセンター 047-436-0811
SDS No.: 102310090-2

2. 危険有害性の要約

製品のGHS分類、ラベル要素
GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体: 区分 2

健康に対する有害性

急性毒性(経口): 区分に該当しない

急性毒性(経皮): 区分に該当しない

急性毒性(吸入): 区分 4

皮膚腐食性/刺激性: 区分 2

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性: 区分 2B

呼吸器感作性: 区分 1

皮膚感作性: 区分 1

生殖細胞変異原性: 区分に該当しない

発がん性: 区分に該当しない

生殖毒性: 区分 2

特定標的臓器毒性(単回ばく露): 区分 3

特定標的臓器毒性(反復ばく露): 区分 2

誤えん有害性: 分類できない

環境有害性

水生環境有害性 短期(急性): 区分に該当しない

水生環境有害性 長期(慢性): 区分に該当しない

オゾン層への有害性: 分類できない



注意喚起語: 危険

危険有害性情報

引火性の高い液体及び蒸気

吸入すると有害

皮膚刺激

眼刺激

吸入するとアレルギー、ぜん息又は、呼吸困難を起こすおそれ

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い

呼吸器への刺激のおそれ
眠気又はめまいのおそれ
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ(血液、呼吸器、中枢神経系)

注意書き

安全対策

取扱う前に全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わない。
保護手袋/保護眼鏡/保護衣/保護面などの個人用保護具を着用する。
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入してはならない。
熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざける。ー禁煙。
容器を接地する/アースをとる。
静電気放電に対する予防措置を講ずる。火災を発生しない工具を使用する。
取扱い後は手洗い・うがいをする。
この製品を使用するときに、飲食または喫煙してはならない。
環境への放出を避ける。
容器は密閉しておく。

応急措置

気分が悪い時は、医師の診断/手当を受ける。
飲み込んだ場合:直ちに医師に連絡する。口をすすぐ。無理に吐かせてはならない。
皮膚(または髪)に付着した場合:直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ皮膚を流水/シャワーで洗う。
吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
眼に入った場合:水で数分間注意深く洗う。コンタクトレンズを着用し容易に外せる場合は外し洗浄を続ける。眼の刺激が続く場合、医師の診断/手当を受ける。
暴露または暴露の懸念がある場合:医師の診断/手当を受ける。
汚染した衣類を再使用する場合は洗濯する。
漏出物を回収する。

保管

施錠して保管する。
直射日光、凍結を避け、換気の良い涼しい所で、容器を密閉し保管する。

廃棄

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄する。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 :混合物

化学名 :

| 成分名 | 含有量(%) | CAS No. |
|--|-------------|-------------------|
| ポリメリック MDI (内 メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート) | 17 (6.4) | 非公開 (101-68-8) |
| メタクリル酸メチル | 6.0 | 80-62-6 |
| アセトン | 76.7 | 67-64-1 |

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
呼吸に関する症状が出た場合は医師に連絡すること。
めまい、せき、たんなどが激しいときは、ただちに医師の診断を受けること。
暴露又は暴露の懸念がある場合は医師の診断/手当を受けること。

皮膚(又は髪)に付着した場合

多量の水と石鹸で洗うこと。直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと。
皮膚刺激または発疹が生じた場合は医師の診断/手当を受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

目に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。

次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合は医師の診断／手当てを受けること。

飲み込んだ場合

気分が悪い時は医師に連絡すること。

応急措置をする者の保護

救助者は、ゴム手袋、ゴーグル等の適切な保護具を着用する。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂

不適切な消火剤

棒状の水

特有の危険有害性

燃焼ガスには、一酸化炭素、窒素酸化物等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙の吸入を避ける。

特有の消火方法

火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。

関係者以外は安全な場所に退避させる。

消火作業は、可能な限り風上から行う。周囲の設備などに散水して冷却する。

消火のための放水等により、製品もしくは化学物質が河川や下水に流出しないよう適切な措置を行う。

消火を行う者の保護

燃焼ガスには、一酸化炭素、窒素酸化物、ジフェニルメタンジイソシアネートの蒸気等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、自給式呼吸器など適切な呼吸用保護具を着用し、煙の吸入を避ける。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

作業には、必ず保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。

多量の場合は、人を安全な場所に退避させる。

必要に応じた換気を確保する。

環境に対する注意事項

漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。

回収、中和 ならびに 封じ込め及び浄化の方法/機材

少量の場合、吸着剤(土・砂・ウエス等)で吸着させ除去した後、残りをウエス、雑巾等によく拭き取る、または中和剤を散布して中和し、大量の水で洗い流す。

多量の場合、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてからドラム等に回収する。回収後の床は、上述の通り中和、除害の処置をとる。

回収した容器は密閉せずに、[廃棄上の注意]記載内容に従って廃棄する。

中和剤の例

水/炭酸ナトリウム/液体洗剤(重量比)=90-95/3-8/0.2-0.5

二次災害の防止策

付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

床に漏れた状態で放置すると、滑り易くスリップ事故の原因となるため注意する。

漏出物の上をむやみに歩かない。

火花を発生しない安全な用具を使用する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

(取扱者のばく露防止)

取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。

水と反応すると炭酸ガスを発生し発泡固化する。(3%濃度以上)

(火災・爆発の防止)

火気厳禁

局所排気、全体換気

作業場の換気を十分行う。

安全取扱注意事項

保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用し、直接の接触を防ぐ。

取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。

配合禁忌等、安全な保管条件

適切な保管条件

換気の良い冷所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

施錠して保管すること。火気厳禁。

気相部は窒素または乾燥空気(露点-30℃以下)で置換し、密閉保管する。

避けるべき保管条件

直射日光が当たる場所。屋根がない場所。高温になる場所、およびその隣接した場所。

開封状態での保管。

配合禁忌

消防法で定める混載禁止物質との同一保管は禁止。

セットで販売している化学物質以外との配合は禁止。

容器包装材料

製品使用容器に準ずる。

8. ばく露防止及び保護措置

職業ばく露限界値、生物学的限界値等の管理指標

管理濃度

(アセトン) 500ppm

許容濃度

(MDI) 日本産業衛生学会(2013年度版) OEL: 0.05mg/m³

(MDI) ACGIH(2005年度版) TWA: 0.05ppm

(アセトン) 日本産業衛生学会(2013年度版) OEL: 200ppm、470mg/m³

(アセトン) ACGIH(2005年度版) TWA: 500ppm、STEL/C: 750ppm

(メタクリル酸メチル) ACGIH(2005年度版) TWA: 50ppm、STEL/C: 100ppm

設備対策

労働衛生法上の規制に従って、可能な場合には、換気設備などの施設上の技術的な対策を講じて作業者を保護しなければならない。取扱い場所の近くにシャワー手洗い洗眼設備等を設けその位置を表示する。

保護具

呼吸用保護具

必要に応じて、その有害性物質に対して適切な保護の出来る保護マスクを着用する。

手の保護具

保護手袋を着用する。

着用すべき手袋の材質: 不浸透性の耐油性手袋(アクリロニトリル、ブチルゴム、ネオプレン系)

眼の保護具

保護眼鏡または防災面を着用する。

皮膚及び身体の保護具

保護衣および必要に応じて保護長靴、保護前掛けを着用する。

取り扱う場合には、皮膚を直接曝さないような衣類を着けること。

また化学薬品が浸透しない材質であることが望ましい。

衛生対策

取扱い後は、良く手洗いうがいをする。

この製品を使用するときは、飲食又は喫煙をしてはならない。

汚染した衣類を再使用する場合は洗濯する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態：液体

色：褐色

臭い：特異な臭いを有する

融点/凝固点：データなし

沸点又は初留点及び沸点範囲：56.2℃

可燃性：データなし

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界：データなし

引火点：-20℃(SETA)

自然発火点：456℃

分解温度：データなし

pH：データなし

粘度：60mPa・s(25℃)

動粘性率：データなし

溶解度

水に対する溶解度：難溶

トルエン、酢酸エチル、アセトン等に対する溶解度：可溶

n-オクタノール/水分配係数：データなし

蒸気圧：データなし

密度及び/又は相対密度：データなし

相対ガス密度(空気=1)：データなし

粒子特性：データなし

10. 安定性及び反応性

安定性

通常の手扱いでは安定である。加熱により発火する。

危険有害反応可能性

水と反応して発熱、発泡硬化し、二酸化炭素を発生する。

強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。

避けるべき条件

加熱・高温、着火源との接触。吸湿、注水、活性水素化合物(水、アルコール、アミン等)と発熱を伴い激しく反応し、圧力上昇による爆発の危険をもたらす。

混触危険物質

銅およびこれらの合金、アルミニウム、ポリ塩化ビニル

危険有害な分解生成物

窒素酸化物

11. 有害性情報

物理的、化学的及び毒性学的特性に関係した症状

急性毒性

経口毒性成分データ

(アセトン) ラット LD50>5000mg/kg (SIDS (1999)), ACGIH (2001))

(メタクリル酸メチル) ラット LD50=7,900mg/kg (ECETOC JACC30 (1995))

(ポリメリックMDI) ラット LD50>5,000mg/kg (試験動物不明、Wazeter1964a)

経皮毒性成分データ

(アセトン) ウサギ LD50>5000mg/kg (ACGIH (2001)、SIDS (1999))
(メタクリル酸メチル) ラビット LD50=5,000mg/kg以上 (ウサギ、RTECS (2004))
(ポリメリックMDI) 試験動物不明 LD50>5000mg/kg (Wazeter 1964a)

吸入(蒸気)毒性成分データ

(アセトン) ラット LC50=32000ppm (75.8mg/L) (SIDS (1999))
(メタクリル酸メチル) ラット LC50=7093ppm (吸入暴露試験(蒸気) (ECETOC JACO30 (1995)))

吸入(粉塵/ミスト)毒性成分データ

(ポリメリックMDI)
ポリメリックMDIのLCB50B(4時間)は490mg/m³である(Appleman and de Jong, 1982)。この試験で使われたミストは急性毒性試験のための国際的ガイドラインに合っているが、そのような人工的に発生させた微細ミストは職場で発生することはない、暴露の可能性は全く無い(EC2005)ことからEUの専門家はこのデータを基に分類するのは不適当であると結論付けている。ポリメリックMDIの区分は "Harmful (Directive 67/548/EEC; 25th ATP, Dir 98/8/EC, O.J. 30.12.1998)" から「区分4」とした。

局所効果

皮膚腐食性/刺激性成分データ

(アセトン)
ウサギ皮膚に対して刺激性なし(EHC207(1998))、(SIDS(1999))の記載がある。
(メタクリル酸メチル)
ECETOC JACC30 (1995)のウサギ皮膚刺激性試験結果 (24時間後の観察で、強度の紅班と中心にくぼみを持った中程度から強度の浮腫、0.2g/kg適用は3日後で刺激は消失、2.5g/kgは14日後でも刺激性)の記述、及び参考としてEUリスク警句Xi;R37/38 がある。
(ポリメリックMDI)
動物と人との全般的な試験結果は僅かな刺激を示し、1つの試験結果ではより厳しい刺激(EC2005)を示した。EUの区分では刺激性(R38)が付与されている。

眼損傷性/刺激性成分データ

(アセトン)
蒸気は人の眼を刺激する。しかし暴露が止まると刺激性は続かない(ATSDR(1994))。ウサギではsevereという結果が報告されている(ACGIH(2001))。角膜上皮は破壊されるが、基質までは至らず、角膜上皮の破壊は4-6日で回復する。アセトンは腐食性の眼刺激性ではない(SIDS(1999))との記述がある。
(メタクリル酸メチル)
EU-RAR No.22(2002)、CERIハザードデータ集96-35(1997)、ACGIH(7th, 2001)のウサギを用いた眼刺激性試験結果(虹彩及び角膜には影響なかった。24時間後の結膜にグレード2の赤変がみられた。ウサギで軽度から中等度の眼の刺激性がある。)の記述から眼への刺激性はModerate又はMildと判断できる。
(ポリメリックMDI)
いくつかの動物による調査ではわずかな目の痛みを示し、人の目にいくらかの刺激を示した。EU区分は刺激性(R36)が付与されている。

感作性

呼吸器感作性成分データ

(メタクリル酸メチル) 日本産業衛生学会の既存分類 (気道感作性 第2群)
(ポリメリックMDI)
呼吸器感作性があることは人と動物で実証されており(EC 2005, Pauluhn 1997, Vandenplas et al. 1993)、またEUの呼吸器感作性(R42)が付与されている。

皮膚感作性成分データ

(アセトン)
Mouse ear swelling test及びGuinea pig maximization testでnegative(SIDS(1999))と記載されている。
(メタクリル酸メチル)
EU-RAR No.22(2002)の記述「アレルギー性皮膚炎が発生」、日本産業衛生学会の皮膚感作性物質及び参考としてEUリスク警句R43(皮膚接触により感作を引き起こす可能性がある)の情報があある。
(ポリメリックMDI)
皮膚感作性があることは人と動物で実証されており(EC2005, Thorne et al.1987, Bernstein et al.1993)、またEUの皮膚感作性(R43)が付与されている。

生殖細胞変異原性

生殖細胞変異原性成分データ

(アセトン) in vivo小核試験で陰性(SIDS(1999))、(EHC207(1998))の結果がある。

(メタクリル酸メチル)

EU-RAR No.22(2002)、ECETOC JACC30(1995)の記述から、生殖細胞in vivo経世代変異原性試験(優性致死試験)で陰性、生殖細胞in vivo変異原性試験なし。体細胞in vivo変異原性試験(染色体異常試験、小核試験)では、ラットの染色体異常試験でギャップタイプの異常出現率の僅かな増加がみられているが、いずれの試験も「信頼性に問題ある」「陽性と判断するには証拠が不十分」等のEU、ECETOC及びCICADの判断が妥当と考えられるため、体細胞in vivo変異原性試験は陰性と判断したデータがある。

(ポリメリックMDI)

生殖細胞変異原性データは全くない。モノメリック及びポリメリックMDIの特定の哺乳動物による体細胞変異原性データがあるが、それらは陰性である(EC2005, Seel et al.1999, JETOC1982, Pauluhn et al. 2001)。

催奇形性 :データなし

発がん性

(アセトン) ACGIHでA4と分類されている。(ACGIH(2001))

(メタクリル酸メチル) IARC (1994);Group3、ACGIH(2001);A4、EPA(1998);E

(ポリメリックMDI)

ラットを用いた最大許容濃度以上のポリメリックMDIのミスト暴露による発がん性試験で、気道のみに影響した(Reuzel et al. 1990)。最も高暴露のグループでは刺激性の影響が現れ、低い確率で肺腺腫と1つの悪性腺腫が見られた。モノメリックMDIの異常な長期露出試験(17時間/日)でも、最も高暴露のグループで刺激性の影響による幾つかの前腫瘍の変化が見られた(Hoymann et al. 1995)。総体的に、MDIミストの長期肺刺激は腺腫の増生につながることを示しているが、そのような高濃度と吸入しやすい微細ミストの発生は試験所でのみ可能であり、職場での低濃度のMDI蒸気による人体暴露に当てはめるのは不適当なので発がん性は「区分に該当しない」と結論付けた。IARC分類がグループ3であることは注目される(IARC 1999)。MDIの疫学試験は、MDI暴露による発がん性の増大に関連はしないことを示している。ドイツMAK(Mak-Values Vol.45, 2008)で発がん性評価はカテゴリー4(遺伝毒性が無いまたは遺伝毒性がごく僅かな役割を果たすにすぎない発がん性物質)としている。

生殖毒性

(アセトン)

疫学調査で流産への影響なし(ATSDR, 1994)という報告がある。

ラットの高濃度暴露(11000ppm(20mg/L))でわずかな発生毒性(胎児体重減)(EHC、207(1998))が、マウスの高濃度暴露(6600ppm(15.6mg/L))で胎児体重減、後期胚吸収率増(EHC、207(1998))が報告されている。EHCでは、ヒトと動物で更に検討が必要であるとの記載がある。

(メタクリル酸メチル)

EU-RAR No.22 (2002)の記述から、ラットの催奇形性試験で、母体毒性(死亡、体重減少等)が発現する用量で、胎児毒性(早期胎児死亡、頭尻長の減少、血腫の発生)がみられているデータがある。

短期ばく露による即時影響、長期ばく露による遅延/慢性影響

特定標的臓器毒性 単回ばく露 成分データ

(アセトン)

ヒトへの12000ppmの暴露で喉の刺激(ACGIH(2001))、1190、2400mg/m³/6hの暴露で鼻、喉、気管の刺激(EHC 207 (1998))、1000ppm/4hの暴露で喉の刺激(EHC 207 (1998))の記載より区分3(気道刺激性)、200mlを飲み込んだ男性に昏睡(12時間後意識回復)、12000ppm暴露した労働者に頭痛、めまい、足の脱力、失神(ACGIH(2001))の記載より区分3(麻酔作用)に分類した。

(メタクリル酸メチル)

ヒトについて、「気道刺激性、脱力、発熱、めまい、吐き気、頭痛、眠気」(EU-RAR No.22 (2002))の記載があることから、気道と中枢神経系が標的と考えられ、気道刺激性と麻酔作用がみられている。

(ポリメリックMDI)

モノメリック及びポリメリックMDIの動物試験で一時的な刺激性作用が報告されているが(Weyel and Schaffer 1985, Pauluhn et al. 1999, Pauluhn 2000, Kilgour et al. 2002)、MDIは低蒸気圧であり、この濃度では人への刺激性は殆ど起こらない。しかし、MDIは推奨暴露限界以上の濃度では刺激を起こす可能性があり「区分3(気道刺激性)」とした。

特定標的臓器毒性 反復ばく露 成分データ

(アセトン)

ボランティアによる試験で500ppm、6時間/日、6日の暴露群に白血球、好酸球の有意な増加及び好中球の6食作用の有意な減少が観察されている(ACGIH(2001))ので区分2に分類した。ラット、マウスの試験でもガイドランス上限値を大きく超えた投与量ではあるが、ヒトに見られたと同様な血液学的変化が認められた

(SIDS (1999))との記述がある。

(メタクリル酸メチル)

ヒトについて、「萎縮性鼻炎、喉頭炎、自律神経障害、神経衰弱、頭痛、眩暈、神経過敏、集中力散漫、記憶力の低下」(環境省リスク評価書第2巻(2003))等の記述があることから、標的臓器は呼吸器、中枢神経系と考えられた。

(ポリメリックMDI)

MDIの反復暴露の結果として、幾つかの試験で肺機能低下が報告されている。しかし、これは吸入暴露後に、接触した部位の組織の中でのみ観察され体系毒性を表していない。それらは既に、気道刺激性(特定標的臓器・単回暴露の区分3)及び呼吸器感受性(区分1)の項目で扱っている。人において、全ての疫学試験ではないが長期暴露により肺機能低下と呼吸器症状が見つかっている(EC 2005)。しかし、これらの暴露は一般的には他の原料、時にはトルエンジイソシアネートとの相互暴露である。Ott(2002)及びOtt,Diler and Jolly (2003)は、トルエンジイソシアネートの呼吸器感受性が肺機能低下への寄与の可能性を示している。

GHS(UNECE 2003)の3.9.1.6章(急性毒性、眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性、皮膚腐食性/刺激性、皮膚及び呼吸器の感受性、発がん性、変異原性、生殖毒性などその他の個々の毒性についてはGHSで別個に扱われているため、本章には含まれない)から、反復暴露後の肺への影響は、特定標的臓器毒性には含まれないと結論付け「区分に該当しない」とした。

誤えん有害性

誤えん有害性成分データ

(アセトン)

動粘性率は計算値で0.426mm²/secであり、化学性肺炎の動物データが無いが、C13以下のケトンである。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生毒性 成分データ

(アセトン) 魚類(ファットヘッドミノー) LC50>100mg/L 96時間 (EHC207、1998)

(メタクリル酸メチル) 甲殻類(オオミジンコ) EC50=69mg/L 48時間 (EU-RAR、2002)

(ポリメリックMDI) 急性毒性 LC50>1000mg/L (魚、無脊椎動物および藻類)

(ポリメリックMDI) 慢性毒性 NOEC>1640mg/L (Blom and Oldrsmá, 1994)

水溶解度

データなし

残留性・分解性

(メタクリル酸メチル) BODによる分解度; 94.3%(既存化学物質安全性点検データ)

生体蓄積性

(メタクリル酸メチル) log Kow=1.38(PHYSPROP Database、2005)

(アセトン) 難水溶性でない。(水溶解度=1.00 × 10⁶mg/L(PHYSPROP Database、2005))

土壌中の移動性 :データなし

オゾン層破壊物質 :データなし

その他情報

その他の環境有害性情報 漏洩、廃棄などの際には環境に影響を与えるおそれがあるので取り扱いに注意する。
特に製品や洗浄水が地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

13. 廃棄上の注意

廃棄方法

引火性物質(アセトン)を含むので注意する。焼却する場合、関連法規・法令を遵守する。

廃棄する場合、内容物を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者や処分業者と契約し、廃棄物処理法(廃棄物の処理および清掃に関する法律)および関係法規・法令を遵守し、適正に処理する。本製品・MDIで汚染したものも中和剤(項目6参照)等を用いて開放系で無害化処理した後、適切な方法で廃棄処分する。

少量の場合は、次の方法によって処分することも出来る。

ポリオールと反応させ、固形物として焼却か埋め立てにより廃棄する。

反応に際しては発熱やガスの発生があるので少量ずつ解放系で行い、固形物が冷めたことを必ず確認する。

液状中和剤中に攪拌下で適下後48時間以上放置し、尿素化合物等に変えて無害化する。中和剤は本製品

の10倍以上用い、発泡に注意して密閉系での処理は絶対に避ける。

汚染容器及び包装

空の汚染容器・包装を廃棄する場合、内容物を除去した後に、容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者や処分業者に廃棄物処理法(廃棄物及び清掃に関する法律)、及び関係法規・法令を遵守して、適正に処理する。

14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

国連番号 :1993

クラス :3

容器等級 :II

正式品名 : FLAMMABLE LIQUID, N.O.S. (ACETONE)

指針番号 :128

輸送の特定の安全対策及び条件

容器の破損、内容物の漏れがないことを確かめ、転倒、落下、破損の無いように積み込み、荷崩れを防止すること。火気厳禁。

陸上輸送 : 消防法、労働安全衛生法の輸送について定めるところに従う。

海上輸送 : 船舶安全法に定めるところに従う。

航空輸送 : 航空法に定めるところに従う。

15. 適用法令

毒物及び劇物取締法

該当する化学品を意図的成分として含有せず、購入原料に不純物として含有するとの情報を受けていません。

労働安全衛生法

施行令18条 名称等を表示すべき危険物及び有害物(平成26年6月1日以前)

アセトン

施行令18条 名称等を表示すべき危険物及び有害物(平成26年6月1日施行分より)

アセトン

施行令18条の2 名称等を通知すべき危険物及び有害物

アセトン; メタクリル酸メチル; メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート

別表第1 危険物(第1条、第6条、第15条関係)

危険物・引火性の物

特定化学物質障害予防規則

該当しない

有機溶剤中毒予防規則

第2種有機溶剤: アセトン

化学物質管理促進(PRTR)法

第1種指定化学物質:

メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート; メタクリル酸メチル

消防法

第4類 引火性液体第1石油類 危険等級 II 非水溶性液体

化審法

優先評価化学物質

メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート; アセトン

労働基準法

疫病化学物質

メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート; アセトン; メタクリル酸メチル

(法第75条第2項、施行規則第35条・別表第1の2第4号1・昭53労告36号)

感作性を有するもの

メタクリル酸メチル(法第75条第2項、施行規則第35条・別表第1の2第4号・平8基発第182号)

船舶安全法

危規則第2,3条危険物告示別表第1 引火性液体類

航空法

施行規則第194条危険物告示別表第1 引火性液体

外国為替および外国貿易法

輸出貿易管理令別表第2(輸出の承認、アセトンを超えて含有する。)

麻薬及び向精神薬取締法

第2条第7項 麻薬向精神薬原料(アセトンを超えて含有する。)

海洋汚染防止法

ばら積み運送; 有害液体物質(Z類物質)、個品運送; 該当しない

施行令別表第1の4 危険物

16. その他の情報

参考文献

JIS Z 7252, JIS Z 7253 : 2019

Supplier's data/information

化学物質総合情報提供システム(独立行政法人製品評価技術基盤機構NITE)

責任の限定について

本データシート記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、化学品の含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、記載内容は新しい知見又は法規制の変更等により改訂されることがあります。

注意事項は、通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。

以上